様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２１７３０５７１

研究課題名（和文）「投影ドラマ法」の可能性－既存の表現療法技法との比較、グループでの実施も踏まえて

研究課題名（英文）The possibility of "Projective Drama Therapy

研究代表者
岡本　直子（OKAMOTO, Naoko）

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：５０３８９６１５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,800,000円、（間接経費）　540,000円

研究成果の概要（和文）：　「投影ドラマ法」は、ミニチュアの舞台と人形を用いて1人の「表現者」（「表現する主体」の意味でこう記す）が即興劇を表現し、後で見守り手とともにそれを振り返るという手続きから成る、申請者が考案した技法である。本研究では、「投影ドラマ法」の特異性やそれがもたらす心的体験の特徴を、箱庭療法、グループ箱庭療法、そして演劇療法などの既存の表現療法技法との比較を踏まえて考究した。その結果、「投影ドラマ法」は既存の技法と共通する体験と同時に「投影ドラマ法」独自の体験も提供しうることが示唆され，集団施行ではない個人療法の状況で「投影ドラマ」を実施していく意義が推察された。

研究成果の概要（英文）："Projecitve Drama Therapy" invented by us. This therapy consists of improvised drama and an introspecitve interview. Miniature paper dolls with stands fixed to their feet and a stage with a background picture are provided. In this study, we investigate therapeutic characteristics of "Projective Drama Therapy" comparing other methods of expressive therapy such as sandplay therapy, group sandplay therapy, and drama therapy. The result shows "Projecive Drama Therapy" may give clients expeliences original in "Projective Drama Therapy" as well as those common to expressive therapies. The significance of "Projective Drama Therapy" as private setting was reassured.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：「投影ドラマ法」　表現　心理療法　パーソナリティ傾向　集団　個人　箱庭療法　コラージュ療法

１．研究開始当初の背景

「投影ドラマ法」はミニチュアの舞台と人形を用いて１人の「表現者」(「表現する主体」の意味でこう記す）が即興劇を表現し、後で見守り手とともにそれを振り返るという手続きから成る技法である。本研究では、「投影ドラマ法」は、言語のみでは表すことのできないクライエントの内的世界を何らかの媒体を通して表現可能にするという表現療法（山中、1999）と関連が深い。中でも、ミニチュアを配して表現を行うという点で箱庭療法（河合、1969）と類似点を有すると考えられる。また、即興劇を表現するという点で、演劇を応用した療法であるサイコドラマ（Moreno, 1946）やドラマセラピー（Emunah, 1994）と類似点を有する。しかし、ミニチュアが人形（人物や動物）に限られていることや、常に人形の動きや台詞を伴う即興劇が表現されること等、箱庭療法とは異なる点も少なくない。また、ミニチュアの舞台と人形という媒介物を通しての表現は、身体を用いて直接表現するドラマセラピーとは異なる。このことから、「投影ドラマ法」は既存の表現療法技法には存在しない表現チャンネルを有すると考えられ。そこで本研究では、「投影ドラマ法」の特異性や有効な適用対象について既存の表現療法技法との比較を含めた検証を行った。

２．研究の目的

(1)「投影ドラマ法」がもたらす心的体験の検討。
(2)「投影ドラマ法」適用に有効と考えられるパーソナリティ傾向の検討。
(3)「投影ドラマ法」と既存の表現療法との比較

３．研究の方法

目的(1)(2)

<u>調査協力者</u>

大学学部生 60 名（男性 29 名、女性 31 名）

<u>「投影ドラマのセッション」</u>

「投影ドラマ」のセッションを個別に実施した。調査協力者に、ミニチュアの人形を用いて即興的にドラマを表現するよう依頼した。

<u>質問紙</u>

1)パーソナリティの評定

調査協力者のパーソナリティを測定する目的から，和田（1996）が作成した「Big Five 尺度」(5 段階評定）を用いた。「外向性」,「神経症傾向」,「開放性」,「誠実性（勤勉性)」,「調和性（協調性)」の 5 因子からなる。

2)体験の評定

「投影ドラマ」を通して得られる内的体験を測定する目的から，岡本（2001）が作成した「ドラマ体験尺度」(6 段階評定）を用いた。心にわき起こる事象の即興的な表現や，構えなしの自由な表現などに関する「即興体験」と，我を忘れた没頭や，気分の高まり，非日常の感覚などに関する「没頭体験」の 2 因子からなる。体験の評定に加え，得られた内的体験について自由に既述する欄を設けた。

目的(3)

<u>調査協力者</u>

63 名(箱庭療法)､89 名(グループ箱庭療法)、66 名（ドラマセラピー)。

<u>表現療法のセッション</u>

箱庭療法のセッションは個別に、グループ箱庭療法のセッションは集団で実施した。

<u>質問紙</u>

1)パーソナリティの評定

目的(1)(2)に基づく調査同様、「Big Five 尺度」を用いた。

2)体験の評定

目的(1)(2)で用いた「ドラマ体験尺度」の文言を一部変更し、箱庭療法、グループ箱庭療法、ドラマセラピーから得られた体験の評定と自由記述を求めた。

４．研究成果

目的(1)

「ドラマ体験尺度」にもうけた自由記述欄の記述内容をコード化し､KJ 方を参考に類似しているものをまとめていった。その結果、カタルシスやプレイフルネス賦活など、演劇療法で得られるとされる体験が示された。それとともに、投影の移り変わりや役割になりきることの気恥ずかしさからの解放など、ミニチュアの人形を介するという間接的な表現であるがゆえの体験も得られることが示された。しかし、途切れた時の気まずさ、恥ずかしさ・抵抗、表現促進にともなう危険性といった課題も存在することも示された。

目的(2)

数量的分析の結果から、他者と外交的にかかわるパーソナリティである「外向性」が高いほど即興的にドラマを表現できることが示された。このことは、質的分析から示唆された、「投影ドラマ」から得られる体験の有効性と課題とも関連すると考えられた。外向性が高い場合はプレイフルネスやカタルシスなどが体験されやすく、そうでない場合は恥ずかしさや気まずさなどが体験されやすいことが推察された。

目的(3)

箱庭療法に関しては、箱庭制作を通して得られる心的体験としての没頭体験や即興的表現の体験と几帳面さや誠実さに関わるパーソナリティである「誠実性」との関連性が示された。また、箱庭療法は様々な制作スタイルで体験できること、「誠実性」の高低で体験のされ方が異なり得ることが示唆された。「誠実性」が高い者は「きちんと作る」ことに重きを置き、その結果、自由に作ることや作ったものからイメージを膨らませることがあまり多くなく、箱庭制作による気づきがもたらされにくくなるとも考えられた。

グループ箱庭療法に関しては、「没頭体験得点」が高い群は低い群に比べ、「調和性得

点」が高い傾向が示された。また,「没頭体験得点」が高い群のなかでは「即興体験得点」が高い場合がそうでない場合よりも「調和性得点」が高いこと,「即興体験得点」が高い群のなかでは「没頭体験得点」が高い場合がそうでない場合よりも「調和性得点」が高いことが示された。また、振り返りでの語りと自由記述からは,危険や悪を象徴するアイテムが置かれた場合、箱庭の世界を守ったり否定的なイメージを和らげるなどの意図がメンバー間に働き、守りや安らぎが実現すべく皆で見守る方向に動くことが示された。さらに、「他者とのやり取り」,「アイテムを通した他者とのやり取り」,「他者が置いたアイテムからのイメージの誘発」,「グループという構造がもつ枠としての機能」などがグループ箱庭には存在することが示唆された。

ドラマセラピーに関しては、即興的な表現体験が豊かに得られるか否かには,「外向性」や「調和性」が関連することが示唆された。

以上のことから、「投影ドラマ法」は既存の表現療法技法と共通する体験と同時に「投影ドラマ」独自の体験も提供しうることが示唆され,集団施行ではない個人療法の状況で「投影ドラマ」を実施していく意義が推察された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

① 杉本理佐・<u>岡本直子</u>　集団個人法と個別法でのコラージュによる気分変容について-POMS短縮版を用いて-　日本芸術療法学会誌（査読有）第 43(2)号、2014 年（掲載確定）.

② <u>岡本直子</u>　幼児期におけるファンタジーの諸相－モンテッソーリ教育の見解と心理学的考察を踏まえて－　モンテッソーリ教育（査読有）45 号, 87-96, 2013 年.

③ <u>岡本直子</u>　グループ箱庭を通して得られる心的体験とパーソナリティとの関連性 立命館大学心理・教育相談センター年報（査読有）11 号, 3-12, 2012 年.

④ <u>岡本直子</u>　心理臨床のプロセスをとらえる調査モデルの可能性　立命館人間科学研究（査読有）　25 号, 33-45, 2012 年.

⑤ <u>OKAMOTO, Naoko</u>　The possibilities of the “Projective Drama Therapy” from the Perspective of Image Projection Creating New Human Support Service (no referee) 127-134, 2011.

〔学会発表〕（計 9 件）

① 磯井知子・<u>岡本直子</u>　若年層妊産婦におけるケアニーズ及びそれに伴う満足感の検討-妊娠期・周産期・育児初期に着目して-　日本心理学会第 78 回大会　2014 年 9 月 10 日～9 月 12 日（同志社大学今出川キャンパス, 京都府京都市）.

② <u>岡本直子</u>・藤井彩胡　各発達段階における対人恐怖心性の特徴-青年期、成人・中年期、老年期の比較を通して-　日本心理学会第 78 回大会　2014 年 9 月 10 日～12 日（発表決定）（同志社大学今出川キャンパス, 京都府京都市）.

③ <u>岡本直子</u>　演劇療法と「投影ドラマ法」の比較－「私以外の役割」を通した表現がもたらすもの－　日本心理臨床学会第 33 回秋期大会　2014 年 8 月 23 日～26 日（発表決定）（パシフィコ横浜, 神奈川県横浜市）.

④ <u>岡本直子</u>　箱庭制作から得られる心的体験とパーソナリティの関連性 日本心理学会第 77 回大会　2013 年 9 月 21 日（札幌コンベンションセンター, 北海道札幌市）.

⑤ <u>岡本直子</u>　臨床心理学と他領域との架橋となる調査方法の模索-調査の枠組みで関係性やプロセスをとらえる試み-（シンポジウム話題提供）日本質的心理学会第 10 回大会　2013 年 8 月 31 日（立命館大学, 京都府京都市）.

⑥ <u>岡本直子</u>　臨床心理学と他領域の架橋としての質的研究（シンポジウム企画）日本質的心理学会第 10 回大会　2013 年 8 月 31 日（立命館大学, 京都府京都市）.

⑦ <u>岡本直子</u>　「投影ドラマ」から得られる内的体験 -パーソナリティとの関連性および体験内容に着目して-　日本心理臨床学会第 32 秋期回大会　2013 年 8 月 26 日（パシフィコ横浜, 神奈川県横浜市）.

⑧ <u>岡本直子</u>　幼児期におけるファンタジーの意味②　－遊びに焦点を当てて－　日本モンテッソーリ協会（学会）第 46 会全国大会　2013 年 7 月 31 日（宮崎フェニックスシーガイアリゾート, 宮崎県宮崎市）.

⑨ 杉本理佐・<u>岡本直子</u>　個別と集団でのコラージュ制作による気分変容について 第 44 回日本芸術療法学会大会　2012 年 12 月 2 日（創価大学, 東京都八王子市）.

⑩ <u>岡本直子</u>　ドラマエクササイズから得られる内的体験とパーソナリティの関連性 日本心理臨床学会第 31 回秋期大会 2012 年 9 月 15 日（愛知学院大学, 愛知県名古屋市）.

⑪ <u>岡本直子</u>　グループ箱庭から得られる心的体験とパーソナリティの関連性　日本心理学会第 76 回大会, 2012 年 9 月 11（専修大学生田キャンパス, 神奈川件川崎市）.

⑫ 岡本直子　幼児期におけるファンタジーの意味－心理学の観点からの考察を踏まえて－　日本モンテッソーリ協会（学会）第 45 回全国大会　2012 年 8 月 3 日（サンプラザシーズンズ, 愛知県名古屋市）.

〔図書〕（計 1 件）

① サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明・<u>岡本直子</u>・谷　晋二・望月　昭・矢藤優子・山本博樹・宇都宮博・櫻井芳雄・星野祐

司・服部雅史・藤　健一・小塩真司・八木保樹・文野　洋・廣井亮一・西垣悦代 心理学スタンダード－学問する楽しさを知る－　ミネルヴァ書房　2014 年, 総頁数 276（3-15）.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
岡本　直子（OKAMOTO, Naoko）
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：50389615

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：